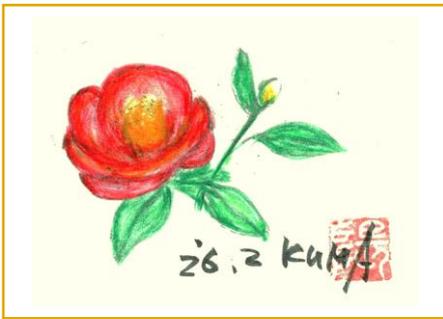


通信

NO. 157
2026年2月号

ビジネス総研株式会社
福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
☎092-982-5177

今月の作品 ツバキ



ツバキが、寒さの中でも、きれいに開花した。蕾も次々に膨らんできている。

スタコラ 冬渇水に思う 西平 秀明

わが国は雨が多く、国土の約75%を山地が占めているため、降った雨はすぐ川に流れ、海へと注いでしまいます。

このため、大雨が降れば洪水、雨が降らなければ渇水という極端な状況になりがちです。

福岡県では、昭和53年渇水（福岡大渇水）は287日間、平成6年渇水では295日間の給水制限を経験しています。

このような背景もあって、福岡県においては、広域的なネットワークで水供給を行う広域利水によって水道水の

和（わ）い、わい新年会

和（わ）い、わい新年会と銘打った新年の懇親会にみなさんに参加いただきました。

今年の会は、断捨離4年目の年度末を迎え、ビジネス総研も人事労務センターも、そろそろ自分自身に引導を渡す時期が来ているように感じています。



安定供給を図っており、特に筑後川水系に大きく依存しています。なかでも福岡都市圏は、水道用水の3分の1が筑後川水系の水です。

その筑後川水系では、昨年9月以降少雨傾向が継続しており、月間降水量は9月から12月の4か月連続で平年値を大きく下回り、河川流量維持のためダムからの補給が続く、ダムの貯水量も減少の一途をたどっています。

このため、昨年12月から、関係者が協議し、取水量を減らす制限が始まっていますが、現状の降水量の推移、ダムの貯水量の減少度合いからみると、当たり前ではない生活が迫ってきているという認識を関係者間で共有しています。

ダムをはじめ、海水淡水化施設の建設、漏水対策や配水調整システムの整備などが進み、また、渇水調整などにより、幸いなことに平成6年以降の30年以上、断水など市民生活・

社会経済活動への影響は出ていません。一般市民の多くは、渇水という言葉や、実感として意識することがほぼないかもしれません。

夏季は1回の雨でダムの貯水量が劇的に回復することもあります。冬季は無降水日が続いたり、雨が降っても少量の場合が多く、冬渇水は長期化する傾向があります。

一人一人が5秒間だけ水道水の利用を控えると1リットルの水が節約でき、それに水道利用者の数と日数を掛け合わせると少なくはない量の節水が可能となります。

当たり前ではない非日常の生活を想像して、リスクは何か、一人一人がとれる行動は何か、水の使い方は適切かなど、冬渇水を、日常の当たり前を見つめ直す機会と捉えてみてはいかがでしょうか。

